

主な改定項目

①想定火口範囲

最新の調査結果により、新たに設定された火口が出現する範囲です。この範囲内のどの地点でも火口ができる可能性があります。



山梨県HP

凡例

今回示された想定火口範囲



過去に噴火したことのある火口



②対象の噴火年代

対象の噴火年代が3,200年前から5,600年前までに拡大されました。

過去
5,600年間
の噴火傾向

- ・過去5,600年間で約180回の噴火が確認され、そのうち96%が小規模・中規模噴火です
- ・溶岩流が発生した噴火は約6割、火砕流が発生した噴火は1割以下です
- ・1707年の宝永噴火を最後に、300年以上噴火は確認されていません

③その他

これまでより詳細な地形データが溶岩流・火砕流・融雪型火山泥流のシミュレーションに使われました。

報告書概要・報告書・報告書説明資料・マップ

県のホームページに掲載されていますので、ご覧ください。



報告書概要・報告書・報告書説明資料



富士山ハザードマップ



マップ出典：山梨県「富士山ハザードマップ(改定版)検討委員会の成果を基に作成」

富士山ハザードマップが改定されました!!

～ 富士山噴火を正しく知り、備えにつなげるために ～

第1回

今年の3月、国、警察、消防、火山専門家、山梨・静岡・神奈川3県や市町村などで構成する富士山火山防災対策協議会で平成16年に作成された富士山ハザードマップが改定されました。新たな火口跡が発見されたことや科学的知見が蓄積されたことなど、最新の調査によるもので、これまでより想定される火口の範囲が広がり、溶岩流が市街地に到達する時間も早まる見通しなどが示されました。

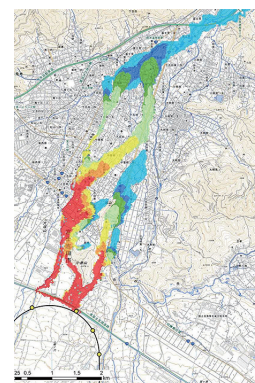
命を守り、安全に避難するためにも、富士山噴火を正しく知ること、備えることが大切です。そこで改定内容や噴火対策などを「基本編・溶岩流編」、「火砕流・融雪型火山泥流ほか編」、「総合対策編」の3回に分け、3カ月間にわたり、掲載します。



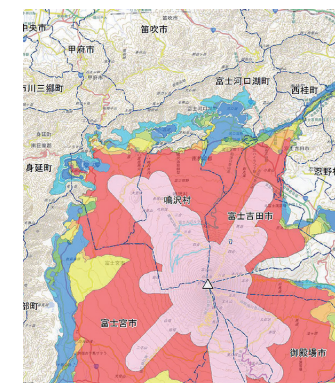
基本編

ハザードマップとは…?!

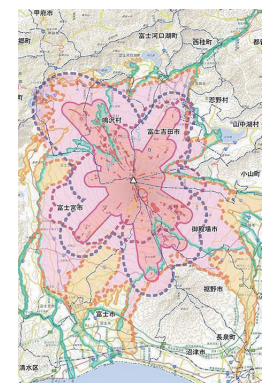
ハザードマップとは災害などで危険な状況や破壊を引き起こす可能性のあるものの影響が及ぶおそれのある範囲を示した地図です。富士山ハザードマップでは溶岩流や火砕流などのシミュレーション結果を示したドリルマップ、ドリルマップを重ね合わせて最大範囲や最小到達時間を示した可能性マップ、可能性マップをもとに、各火山現象の予測範囲を重ねて表示したハザード統合マップがあります。



ドリルマップ



可能性マップ



ハザード統合マップ